

改憲5年以内を公言。ねらいは9条 教育基本法も……安倍新首相

安倍首相は国会での初の所信表明で、これまでの政府見解で禁止されている海外での集団的自衛権（武力）の行使について、日米同盟がより効果的に機能するために、米国とともに海外で戦争ができるようにする作業に着手する方針を表明。憲法についても「日本が占領されている時代に制定され、既に60年近くたった」として改定の方角を打ち出しました。これに先立つ総裁選の中で、改憲について「5年近くのスパン、さらに前倒しもありうる」と述べました。所信表明では改憲手続法の早期成立に強い期待を表明しました。さらに、子どもたちを「戦争をする国」を担う者にするために、教育の国家統制を狙って、教育基本法の早期改定を表明しました。憲法9条と教育基本法は一体のものです。戦争をする国づくりにストップをかけるための活動をさらに強めましょう。



賛同署名を集めましょう



「呼びかけチラシ」（10月発行・第5次）ができました。賛同署名をさらに増やしましょう。チラシは事務局にお申し付けください。お届けします。

前回8月発行の「呼びかけチラシ」は呼びかけ人の名前等に四ヶ所のミスがありました。お詫び申し上げます。また、呼びかけ人の南里卓志さん（野辺）がお亡くなりになりました。心からお悔やみ申し上げます。記載に関しての訂正追加などは事務局にお申し付けください。次回発行で直させていただきます。

〇戦争体験を募集します〇

あきる野9条の会・戦争体験を語りつぐ会が発足し、市民のみなさんの戦争体験手記を募集（次ページ参照）することになりました。また、企画運営にご協力いただく方を募っています。次回打ち合わせ11月25日10:30から市役所ロビー。

5.13 イベントのビデオ

（DVD）ができました。鑑賞の夕べを8月24日に中央公民館で行ないました。DVDをご覧になりたい方は事務局まで。



郡山総一郎さんが

フォトコンテストでグランプリを受賞

5月に講演いただいたフォトジャーナリストの郡山総一郎さんは、第7回上野彦馬賞フォトコンテスト（九州産業大学、毎日新聞社主催。応募作品2,652点）でグランプリを受賞しました。作品は「戦争の後に来たもの～カンボジア」（白黒5枚組み）。郡山さんは「写真の力を信じ、問題提起をしていきたい」と喜びを語っています。

坂本竜馬を撮影した上野彦馬（1838～1904）は、わが国の「写真の祖」と言われています。

池田太郎さん「日本の青空」原作・脚本家 を囲む会 が開かれる

映画「日本の青空」製作あきる野協力会は9月30日に囲む会を開き、27名が参加しました。現代史に興味がないという池田さんは平和憲法を守る映画づくりの思いを縦横に語ってくれました。製作協力券1000円販売中。

連絡先 渡辺照美（野辺・電話 558-9766）

定例サポーター会のご案内



◆ 毎月第2土曜日、10:30～12:00。会場は市役所1階ロビー。定例会の連絡は変更の時以外はいたしません。よろしくご参加ください。

ステッカーをたくさん貼いましょう！

本格的なステッカー（シール）ができました（左図）。1シートにバックの色がメタリック、ゴールド、ホワイトの3枚がついています。扉や窓ガラス、車などに貼れますので大いに貼いましょう。1シート100円でお願ひします。

▼手記「戦争体験」

「あなたは殺してはなりません」(十戒より)



小島 武比古(戸倉)

足立区千壽第二国民学校6年生も卒業近くの3月9日の夜中から10日にかけて、東京下町はB29の大空襲を受けました。空も大地も中空もすべて真っ赤に燃え上がりました。わたくしの家族の住居地域にも焼夷弾が落とされ、友人の家は被災してしまいました。

朝になってようやく火災も落ち着いたので学校の様子を見に行き行ってびっくりしました。千住大橋を渡って西新井方面へ焼け出された人たちの行列が途切れることなく延々と連なっているのです。顔は煤け、みんな放心状態で黙々と歩いているのです。当て所もなく歩いているのです。着の身着のままです。

朝になってようやく火災も落ち着いたので学校の様子を見に行き行ってびっくりしました。千住大橋を渡って西新井方面へ焼け出された人たちの行列が途切れることなく延々と連なっているのです。顔は煤け、みんな放心状態で黙々と歩いているのです。当て所もなく歩いているのです。着の身着のままです。

その世の空襲で一夜のうちに10万人以上の人々が死にました。戦争は殺人です。大量の人が殺されるのです。人生の希望と幸せが一瞬にして断ち切られてしまいます。戦後日本は「戦争はしません」という憲法を定めました。平和憲法があるので日本は戦後60年間、他国人を誰一人殺していません。もし平和憲法が改正され戦争に参加するようにでもなれば、他国民を殺すようになるでしょう。武力は自衛のためだけのものでよいと思います。平和憲法は世界に黄金のように輝いています。大国すべてが見傲うよう日本政府は働きかけて欲しいと願っています。

母に背おわれて 焼夷弾の中を逃げる

前田 眞敬(二宮)

東京大空襲は私がちょうど一歳のときでした。住んでいた蒲田(大田区)が空襲を受けたのはそれより一ヵ月後の4月15日。「空襲!」サイレンが鳴ると母は私をおぶひ紐で背おい、布団を頭からかぶって多摩川の土手に逃げたということです。布団をかぶったのは爆弾の破片などから体を守るためと、寒い一夜を過ごすときにそれ包まってしのぐためだと語ってくれました。逃げている最中に、私が泣きもせずじっと動かなかったので、いっしょに逃げている人に「生きてるか見て」と頼んだところ、私を覗いた人が「目をパッチリ開けていますよ」といわれ安堵したそうです。母が戦争について具体的に話したのはそれくら

いですが、空襲で母の父親と姉とその娘が死に、母の兄は大やけどを負いました。私の記憶の中には何も残っていないように思いますが、確かに私は戦争を体験しました。

「戦争体験」 市民の手記を募集中

あきる野9条の会・戦争体験を語りつぐ会は市民の方を対象に戦争体験の手記を募集しています。自身の体験だけでなく家族から聞いたことでも結構です。あなたの思いも書いてください。500字程度までとします。文集にします。なお、一部はA9ニュースにも掲載します。第1次締め切り11月20日。担当・問い合わせ・送付先(FAX可): 佐野(山田)、野武(伊奈)・電話595-0615
またはあきる野9条の会事務局まで



映画「赤貧洗うが ごとき」をみて

中野ゼロホールで8月31日、田中正造のドキュメント映画を見てきた。足尾銅山の公害に対して明治の帝国議会でその惨状を訴え、明治天皇に直訴し、生涯住民の立場にたった人です。環境問題のさきがけとして、その人となりを描いていて、印象に残ったのは、富国強兵を推し進める政府に対して「陸海軍を全廃して軍事費を人民の福祉に振り向けるべきである」「小生の主義は無戦論にて、世界各国みな陸海軍全廃を希望し、かつ祈るものに候」と、現憲法の本質を100年前に言葉にしていることであった。「赤貧の洗うが如き心もて、無一物こそ富というなれ」・・・欲をかかず、清らかに生きることこそなによりの財産だと思ふ。環境問題の真髄は「真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」と。映画のポスターは呼びかけ人の高山文孝さんが描いた。(瀬沼辰正・油平)

投稿を
どうぞ!

A9ニュースでは、賛同者の皆さんの投稿をお待ちしています。テーマは「私と九条」など。紙面の関係で500字程度以内をお願いします。(事務局までお寄せください)

※印刷直前に北朝鮮の核実験の報道が伝えられました。核実験に強く抗議するとともに、核保有を放棄するよう求めます。憲法九条をもつ日本として、各国が一致して、外交的・平和的手段で臨むよう働きかける必要があります。「北朝鮮問題と九条」についてもご意見を投稿ください。